7/22（月）

# 女の信仰を試されるイエス

マルコによる福音書七章24～30節

女は答えて言った。「主よ、食卓の下の小犬でも、子どものパン屑はいただきます。」（28）

異邦人の女がイエスの噂を聞きつけ、悪霊に取りつかれた娘を癒して欲しいと願い出ました。ところが主イエスはそれを退けられました。けれどもそれは完全な拒絶を意味するものではなく、一度は突き放すような言葉をかけることによって、女の信仰をさらに引き出し、確かなものにしようとされたのです。口語訳では、「主よ、お言葉どおりです。でも……」と食い下がる彼女の姿を記しています。恵みは用意されていないように見える世界にも、主の恵みはあると信じて求め続けることを主は願っておられたのです。私たちも、祈りが直ちには聞かれない経験をしばしばいたします。そのようなとき、祈ることをやめてはなりません。神の沈黙は、神の拒絶ではありません。主の慈しみに信頼し、「主よ、それでも」と願い求めようではありませんか。